

事務事業マネジメントシート(令和 5年度実績と令和 6年度計画)

令和 6年 8月21日更新

事務事業名		ことば教育推進事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政 策	3	教育の健康				所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	末永 舞
	施 策	9	義務教育の充実				所属課	学校教育課	担当者名	小林 信一
	施策の柱	31	学力の向上				所属班	学務指導班	(内線)	5323
予算科目		会計一般	款 10	項 1	目 3	事業連番 11582	根拠法令			
終了、開始年度		☐ 5年度で終了 ☐ 5年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 24 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)			

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	平成22年12月市民提案による認定第1号の事業として、美しいことばに触れることを通じて日本人としての感性を磨き、日本や郷土である合志の文化や伝統を大切にし、夢の実現を目指す子どもを育てることを目標とする。
【業務の流れ】	学校生活の様々な場面で「ことば」を意識した教育活動を実践していく。
【主な予算費目】	報償費、需用費
【意見や要望】	児童生徒によるあいさつや言葉遣いに対する市民の関心は高い。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 5年度実績(5年度に行った主な活動)(DO) 児童生徒の思考力、判断力、表現力等を育くむための専門家(元アナウンサー)による授業及びその成果発表の場として、ことのは作品コンクールを実施した。 【基準に達しなかった理由】 新型コロナウイルスが5月に移行した5月に今年度の計画を学校へ提案し、各学校での事業実施がそれ以降に後倒しとなり、講師(元アナウンサー)との調整を行っていたが、年度末に事業が集中した結果、当初の計画時間通りに事業を実施できない学校が一部生じたため。		6年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 児童生徒の思考力、判断力、表現力等を育くむための専門家(元アナウンサー)による授業及びその成果発表の場として、ことのは作品コンクールを実施する。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア ことば教育を実施している学校数	校	
イ		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
小中学校児童生徒	人	→ ア 児童生徒数
		→ イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
児童生徒の言語活動の向上に資する。	%	→ ア 言語環境の整った児童生徒の割合
		→ イ
*③成果指標設定の理由と 6年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
言語環境が整うことで、児童が居心地のよい学校となることから、言語環境の整った児童の割合とした。		全体計画
		～ 年度
		0

(2)各指標・総事業費 の推移				単位	3年度 実績(決算)	4年度 実績(決算)	5年度 目標(当初予算)	5年度 実績(決算)	6年度 目標(当初予算)	7年度 予定	8年度 見込	9年度 見込
① 活動指標		ア	校		12	12	12	12	12	12	12	12
② 対象指標		ア	人		7,173	7,317	7,429	7,432	7,450	7,500	7,550	7,600
③ 成果指標		ア	%		100	100	100	100	100	100	100	100
投資 入費 量	事業 費 内 訳	財源	国庫支出金	千円								
			都道府県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円								
			繰入金	千円								
	(A)事業費計	一般財源	千円		286	303	852	644	852	852	852	852
		(A)事業費計	千円		286	303	852	644	852	852	852	852
		(A)のうち指定経費	千円		0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円		0	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人		3	2	6	7	6	6	6	6
		延べ業務時間	時間		90	64	410	113	410	410	410	410
		(B)人件費計	千円		351	243	1,633	411	1,633	1,633	1,633	1,633
	トータルコスト(A)+(B)				千円		637	546	2,485	1,055	2,485	2,485

事務事業名	ことば教育推進事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	学校教育課
-------	-----------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は 5年度の後評価、ただし複数年度事業は 5年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 5年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	② 6年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 「ことば教育」に関する活動の場が、教育課程に位置付けされており、言語環境の整備が可能である。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 良質な学習環境が提供されている。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似の事業はない。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限の経費であり削減は難しい。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 学校教育活動の一環として実施している事業であり、「ことば教育」は重要であり削減できない。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 児童・生徒全体に関わるものであり、一部の受益者には偏っていない。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 市内の小・中学校に対しての事業であり、その取り組みについては高度な専門性が必要である。

3 評価結果の総括（CHECK）

学習指導要領では学校教育活動全体にわたって「言語活動」の充実があげられている。「ことば教育」の実践により、教師、児童生徒、保護者が「ことば」をより一層意識した教育に取り組むことができている。豊かな心や表現力の育成に欠かせないものであり、学力の確実な定着にもつながっている。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

</